

地域づくり表彰

団体名（大分県豊後高田市）

地域資源を活用したオリジナルのヘル スツーリズムの確立を目指して

団体名
パーフェクトビーチ・里海
ヘルスツーリズム推進協議
会
事務局 井上 重信



1. 豊後高田市の概要

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島（くにさき）の西側に位置し、域内には、瀬戸内海国立公園を擁し、山間部及び海岸部の自然景観や農村集落景観、六郷満山文化ゆかりの史跡等、豊かな自然と歴史文化などの地域資源が豊富です。

2. 活動開始の背景

本市には、海・里・山・温泉・歴史などの特色ある地域資源が数多くあるものの、いずれもその規模が小さいため、その特色を活かしたブランド戦略などのソフト面での取組が弱く、有効に活用できていないという課題を抱えていました。

そのような中、本市はリアス式海岸や遠浅の砂浜に広がる風光明媚な海岸線を有することから、その海岸線を守る「恋が叶う道＝恋叶（こいかな）ロード」と名付けた国道213号沿線にある、日本夕陽百選に選ばれた「真玉海岸」、「花とアートの岬長崎鼻」などの女性の嗜好にあった観光スポットに着目。これらの強みを最大限に活かすため、海辺の付加価値を高めるなど、さらに魅力を向上させる事業を展開することとしました。



恋叶ロード

3. 花とアートの岬 長崎鼻

本活動について、その概要を説明する前に、舞台となる長崎鼻について

てふれたいと思います。

恋叶ロードの終点にあたる長崎鼻は、以前は一面に耕作放棄地が広がっていましたが、平成19年から地元有志が中心となり、耕作放棄地にひまわりの作付けを始めました。

平成22年には、長崎鼻と地域の共生を築き、地域社会の活性化を図ることを目的として長崎鼻B・Kネットが設立され、以降本格的に耕作放棄地再生事業に取り組み、徐々に花畑として再生していきます。現在では約16haの花畑が広がり、九州最大級の花公園となっています。



長崎鼻に咲くひまわり

ひまわり、菜の花の作付けには、農業や化学肥料を一切使用しない環境にやさしい栽培にこだわりました。

平成25年には長崎鼻に、国内外の著名なアーティストによるアート作品が誕生し、アートと自然・花の融合による五感空間のブランド化が進みました。

また、花による観光再生だけでなく花によるオイル（菜の花油、ひまわり油など）を創出。現在、商品開発で価値あるオイルを製造・販路を拡大しています。



長崎鼻の全景

4. 新たな視点で観光戦略

本市を代表する観光地の一つに成長した長崎鼻ですが、個性的で魅力的ではあるものの、花の咲く季節や夏場のハイシーズンのみ賑わう観光地で、通年型観光地として訴求力が弱い点が課題となっていました。

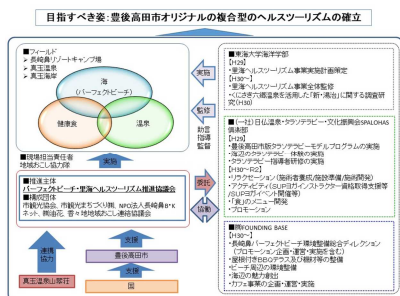
そこで、長崎鼻や周辺の恵まれた地域資源を新たな視点で組み合わせることによって、新しい価値を創出し、滞在型観光地へと転換できないか検討を重ね、着目したのが長崎鼻の美しい海、温泉、健康食材です。

まず、海の活用ですが、規模が比較的小さいコンパクトでモデル事業に最適な長崎鼻リゾートキャンプ場を核に「安全・清潔・快適な海水浴場（パーフェクトビーチ）」を整備し、活性化を目指すこととしました。

それとともに、ヨーロッパを中心に実施されている海洋療法（タラソテラピー）と温泉療法のノウハウを導入することで、特色ある海、温泉、健康食などの小規模な地域資源を新たな視点で統合させ、豊後高田市オリジナルの複合型ヘルスツーリズムの確立を目指す「パーフェクトビーチ構想」を掲げました。

実施主体は、NPO法人長崎鼻B・Kネットや、市観光協会などが構成団体となる「パーフェクトビーチ・里海ヘルスツーリズム推進協議会」が担い、国内でも類を見ない先進性が高い事業であったため、「パーフェクトビーチ構想」については「学校法人東海大学海洋学部」、タラソテラピーについては「一般社団法人日仏温泉・タラソテラピー・文化振興会 SPALOHAS倶楽部」にそれぞれ事業監修や実施を委託しました。また、海辺の環境整備や誘客促進、管理運営については、全国で地方創生事業に取り組むベンチャー企業「株式会社ファウンディングベース」に委託。

より実行性の高い取組となるように
官民協働で事業を展開しました。



事業の全体像

まず、海辺の環境整備として、宿泊施設となるキャンピングトレーラーやグランピングテントを整備。併せて多用途で活用できるバーベキューサイトを整備するなど、ビーチの付加価値を高めるハード事業を実施しました。



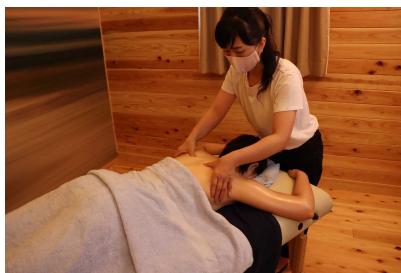
宿泊施設となるキャンピングトレーラー

海辺の環境整備と並行して取り組んだのが、ヘルスツーリズムの核となるタラソセラピーの取組です。ハコモノに頼らない既存の資源を活用したフィールド型タラソセラピーとして、「リラクゼーション」、「アクティビティ」、「食のメニュー開発」の3部門で取り組みました。

「リラクゼーション」では、160万本のひまわりが咲き誇る長崎鼻の強みを活かし、ひまわりの種子を低温圧搾法で抽出したオイルと地元産の無農薬カボスの精油を使った「ウエルカムトリートメント」を開発。地元女性を中心に施術者を募集し、養成とレベルアップに努めました。



長崎鼻の高オレイン酸ひまわりオイル



ひまわりオイルを使用した施術の様子

「アクティビティ」では、サンドウォークやSUPヨガなどの健康体験プログラムを構築し、「食のメニュー開発」では、地元の健康食材である長命草などを使用したメニューを開発。これらを組み合わせた体験プログラムの商品化を図りました。



ビーチを活用した SUP ヨガの様子

5. 地域資源活用のこだわり

本市オリジナルのヘルスツーリズムの確立を目指すにあたり、限られた予算の中で最大限の効果をあげるべく創意工夫を重ねました。その一つが地域資源の有効活用です。

タラソセラピーの施術場所として長崎鼻や市内温泉施設など既存施設を活用。またアクティビティでは長崎鼻のビーチなど、地域固有の資源を活動の舞台とすることで、ウエルカムトリートメントや長命草を使用した健康食の提供と合わせ、単に予算の問題だけでなく、「ここでしか体験することができない付加価値の創出」にも繋がりました。



地元食材を活用したヘルシーメニュー

6. 持続可能な取り組みへ

以上のようにハード・ソフト双方

の環境整備と地域内連携により、市内外への価値提供の幅を増やしていった結果、長崎鼻全体の来場者数は令和2年には過去最高の11万人を超え、事業開始前の平成27年と比較し81%増という高い伸びとなりました。また、集客力が弱かった秋・冬シーズンの観光客が大幅に増加し、一年を通して訪れたい場所に変貌しました。これに伴い事業収益性も向上し、令和2年度の収支実績で黒字を達成し事業の自走化が実現しています。

さらに地域人材を中心に新たな雇用創出にもつながっています。タラソセラピーの施術者のレベルアップのため定期的な研修も実践しており、持続可能な運営体制が構築できました。

7. 成果と今後の展望

本取組で、誘客イベントや提供している食材など、地域と連携を図ることで、より一層利用者への価値提供ができており、「長崎鼻」・「地域」・「利用客」三方よしの仕組み化が実現しました。

また、地元高校生が地域食材を活用した商品開発・販売までを実践するマルシェを開催。地元住民、企業による継続的な環境美化活動や、誘客イベントが開催されるなど、着実に「活動の広がり」を見せています。

また、多くの地域人材が事業に参画したことや、メディアなどにも度々取り上げられることで、長崎鼻の認知度も向上し、シビックプライドの高まりにもつながりました。



地域と連携したイベントの様子

これまでの約5年間の取組により、目指してきた豊後高田市オリジナルの滞在型保養地としての素地はでき、また、持続可能な仕組みも構築できました。今後も市民、そして観光客双方に愛され、そして健康になる長崎鼻を目指して、地域の人々と一丸となって取り組んでいきます。